

舗装打換工(橋梁編)作業手順書

制定・改定日 2023.4.25

項目	内容	留意事項
準備工	①作業打合せ(KY活動) ※現場責任者は、簡易風速計を携帯する。 ②作業内容及び規制内容の確認 ③作業人員及び車両配置の確認 ④保護具の点検 ⑤使用機械、資材、工具の点検	・資機材等落下災害及び飛散防止ネット転倒に関するKY活動を必ず行い実施する。 ・安全打合せ書による確認及びKY活動 ・指示内容確認 ・作業別安全チェックシートの活用 ・マニフェストの確認および合材プラント及び廃材処理施設の確認。 ・PDを最低16セットは積み込む。(4mで深さが平均5cm)
舗装切断工	①現場KYと安全確認(資機材等の落下災害防止、飛散防止ネット転倒防止) ②ユニックにて切断機を荷台から路面に下ろし、給水を行う。 ③墨出しは、ポットホール等損傷箇所の中心から縦断方向および横断方向の左右1m(2m×2m=4m)を目安とする。※センターライン付近はこの限りではない。 ④既設舗装厚を確認し、墨出しに沿って刃を入れる。使用後、路面に置き置きする場合は、歯止めを必ず設置する。	・現地打合せを行い、作業方針を関係者へ周知する。 ・センターライン付近の作業は、一般車に注意する。 ・4m以上施工を行う場合は、合材及びPDの量を確認しておく。 ・橋梁上は舗装厚が薄い箇所があり、切断機で床版を傷つけないよう注意が必要 ・完了後、補修箇所にて雨水が溜まる事が無いよう道路勾配に配慮し、補修形状は平行四辺形(縦断方向は斜辺)とする。 ・冬期は凍結防止のため、タック内は水抜きを行う。
舗装取り壊し	・ユニックにて荷台から飛散防止ネット(重量タイプ)を車線反対側に吊り下ろす。 ・飛散防止ネット(重量タイプ)の組立 ・施工箇所へ移動 ・ロープ及び土壌より転倒防止対策実施 ・現場での確実な安全確認の実施体制(実施方法) ■点検項目 ①ロープ固定：控えの位置は適切か、たるみが無いが、注意喚起がされているか ②土壌固定：設置位置は適切か、設置数量は適切か、土壌質量(10kg)は適切か ③飛散防止ネット：隙間が無いが、破損して無いが、設置位置は適切か ■現場での悪天候等による実施判断 ①前日：天気予報により工事担当者が判断 ②当日：天気予報により現場責任者と工事担当者が判断 ③現場での悪天候等：作業中断する場合は、両柱に土壌を袋追加する。また中止にあっては、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHQSと調整の上、現場責任者へ中止指示を行う。 ④切断部に溜まった泥水をエアーで除去する。 ⑤ブローカー等により既設舗装の取り壊しを行う。殻はもっこ等によりダンピングに積み込む。 ⑥取り壊し完了後は綺麗に清掃し、検測を行う。	・有資格者による作業を行う。(ユニック操作、玉掛) ・車線反対側の安全な場所で行い、留め金具等にてパネル連結を確実に行う。 ・四隅に4人配置し、監視員の合図で移動を行う。(一般車に注意) ・車線反対側の両柱上部をロープに吊り両柱または防護柵等へ固定する。且つ、同柱の1/3の位置にカラビナ付き土壌(10kg)を2袋吊す。 ・点検項目①～③に沿って作業従事者全員で安全確認を実施する。 ※現場巡回、安全パトロールにおいても、必ず安全確認を実施 ・悪天候とは、強風(10分間の平均風速が毎秒10m以上の風、大雨(降雨量が50mm以上の降雨、大雪(1回の降雪量が25cm以上の積雪をいう)
床版取り壊し	①点検ハンマーで床版脆弱部を確認し、補修範囲を決定する。 ②エアーカー等で縁切りを実施後、ブローカー等により脆弱部の除去を行う。 ③取り壊し完了後は綺麗に清掃し、検測を行う。	・床版と舗装の目目が一緒になる場合(鉛直線が同じになる場合)は、舗装を再度10cm掘けた施工目地とする。※センターライン付近はこの限りではない ・耳栓・めがね・防振手袋等、作業に合った保護具を使用する。 ・舗装の脆弱部は全て取り除く。 ・エアーホースの外れ止め確認。
床版補修工	①PDプライマーの主剤、硬化剤(配合比2:1)を1分以上十分に攪拌し、施工面に塗布する。 ②PDボンドの主剤、硬化剤(配合比3:1)を2分以上十分に攪拌し、施工面に塗布する。 ③PD混和液を先に投入してからPDゴムラテポットパウダーを攪拌する。遅延材が必要な場合は先に混和液に入れる。(練り混ぜ時間の目安は120秒) ④縦断勾配の低い箇所より打設を行い、コテにて均す。 ⑤PD混和液の5倍液を散布する。 ※5倍液=PD混和液:水=1:4 ⑥再度5倍液を散布し塗膜養生を実施する。 ※養生時間=2時間	・標準使用量は0.5kg/m <sup>2</sup> 、可使用時間を確認の上、時間内に使用する。 ・標準使用量は0.8kg/m <sup>2</sup> 、可使用時間と打設有効時間を確認の上、時間内に使用する。 ・標準使用量はPDゴムラテポットパウダー:1.923kg/m <sup>2</sup> 、PD混和液:232kg/m <sup>2</sup> ・気温が高い時期は遅延剤を入れて硬化時間を調整する。 ・仕上がりにくい箇所はバイブレーターを当て、表面を均す。 ・表面乾燥を避け、コテすべりが悪くなるので、PD混和液の5倍液を散布する。散布した5倍液をなじませるように、直ちに木コテある場合はプラスチックコテを用いて表面を押さえる。押さえは1回程度で済ませる。 ※金コテは使用しない。 ・表面の急激な乾燥を抑制する。 ・安全データシートを携行し対応する。 ・一般車への飛散防止を確実にを行う。 ・雨水等による防水材の跳び跳ねに注意する。 ・材料加熱時は監視員を配置し、放射温度計にて温度管理を行う。 ・防水材の溶解温度は、230℃～250℃とし、280℃以上加熱させない。
橋面防水工	①プライマー(カチコートRX)を刷毛にて所定量(0.2L/m <sup>2</sup> )均一に塗布する。 ②SS-Bを専用釜で加熱溶解し、アスファルト刷毛等にて所定量(1.5kg/m <sup>2</sup> )均一に塗布する。	・車面出入口明示を確実に施した上で規制内へ流入させる。 ・工場出荷温度から-20℃以下のAs混合物は使用しない。 ・プラント毎に余盛量が違うので注意する。※管理表参照
舗設工	①As混合物運搬トラックを規制内へ誘導させ、到着温度を確認する。 ②人力にてAs混合物を均一に敷き均す。5cm以上深さがある場合は、2層打ちとする。	・転圧回数は試験舗装で決定した片道14回とする。 ・機械使用後は、水抜きを行い、歯止めをかって路肩に置く。
転圧工	①プレートコンパクター及び振動ローラーを併用し、所定回数転圧を行う。 ②施工打ち継ぎ目に防水工を施す。	・防水工にあっては、橋面防水工手順を準拠する。 ・規制開放温度は、40℃以下で管理する。
養生	①転圧終了後、舗装温度が下がるまで養生を行う。 ②出来型検測を行う。	
片付け	①使用した機材等トラックに積み込む。 ②施工ヤードの清掃実施。	・機材の積み忘れが無いよう確認する。 ・規制解除前、再度路面状況を確認する。

作業編成(標準)		機材	資材	安全器具・保護具
現場責任者	1名	角スコップ	カチコートRX	ヘルメット
作業員	3名	コンプレッサー	SS-B	反射(自発光)チョッキ
現場監視員	1名	ブローカー	As混合物	作業笠
先端監視員	1名	飛散防止ネット	PDゴムラテポットパウダー	粉塵マスク
		防水材溶融機		保護メガネ
		攪拌機		耳栓

■注意事項(共通の指導事項)

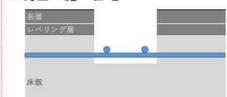
- 作業に適した保護具を着用する。
- センターライン付近の作業は十分注意する。
- 各作業は、有資格者による作業を行うこと。
- はつり、清掃時、の小石等の一般車への飛散には、十分注意を行う。
- 火災防止処置を行う事。(消火器の設置)
- 保管等は、平積で保管する。
- 手持ち式振動工具については取扱を十分理解し、使用する。
- 作業で使用しない工具は、発電機を切るかコンセントを抜き、誤作動がおこらないようにする。
- 手持ち式振動切削工具は切削手袋・切削防護衣を着用する。
- 一人作業の禁止
- 現場で作業手順を変更する場合は作業を中止して、現場責任者から工事担当者へ報告を行い、工事担当者はHQSと調整の上、現場責任者へ指示をだすものとする。

橋梁での舗装打換工の施工目地位置

2021.12.17  
保全計画

施工目地からの浸水による舗装、床版の再劣化を防ぐ目的で、打替工時に施工目をスラして補修する。

■現在の施工目地



■望ましい施工目地



- ◆舗装切削の目安(2023.4.24追記)
- ・ポットホール等損傷箇所の中心から縦断方向および横断方向の左右 $\sim 1m(2m \times 2m = 4m)$ を目安とする。
  - ・舗装を削いだ後、床版を研り、床版と舗装の目目が一緒になる場合(鉛直線が同じになる場合)は、舗装を再度10cm掘けた施工目地とする。

